

# いぶりのあらし

## 位置

- 胆振管内は11市町（4市、7町）からなり、北海道の中央南部にあって、東西152km、南北98kmの細長い地形で、南側の約218kmは海岸線で太平洋に面しています。
- 隣接する地域は、東側が日高、西側が渡島、北側が後志、石狩、空知、上川の各総合振興局及び振興局となっています。

## 面積

- 胆振の総面積は3,697km<sup>2</sup>で、本道の総面積の4.4%（北海道総面積83,424km<sup>2</sup>・北方領土を含む）に当たります。全道14総合振興局及び振興局の中で4番目に小さい面積ですが、奈良県（3,691km<sup>2</sup>）とほぼ同じ面積です。

## 地勢

- 胆振の東部地域は、単調に続く砂浜沿いの平坦地から石狩平野へと広がる勇払平野をはさんで、西に樽前山、支笏湖、東は波状型丘陵地を経て、日高山脈へと続いています。
- 西部地域は、変化に富んだ海岸沿いの平坦地から内陸部へ向かって丘陵地、山岳と続き、ほぼ中央部に洞爺湖や有珠山があり、東にはホロホロ山、オロフレ山、鷲別岳が南北に並んでいます。

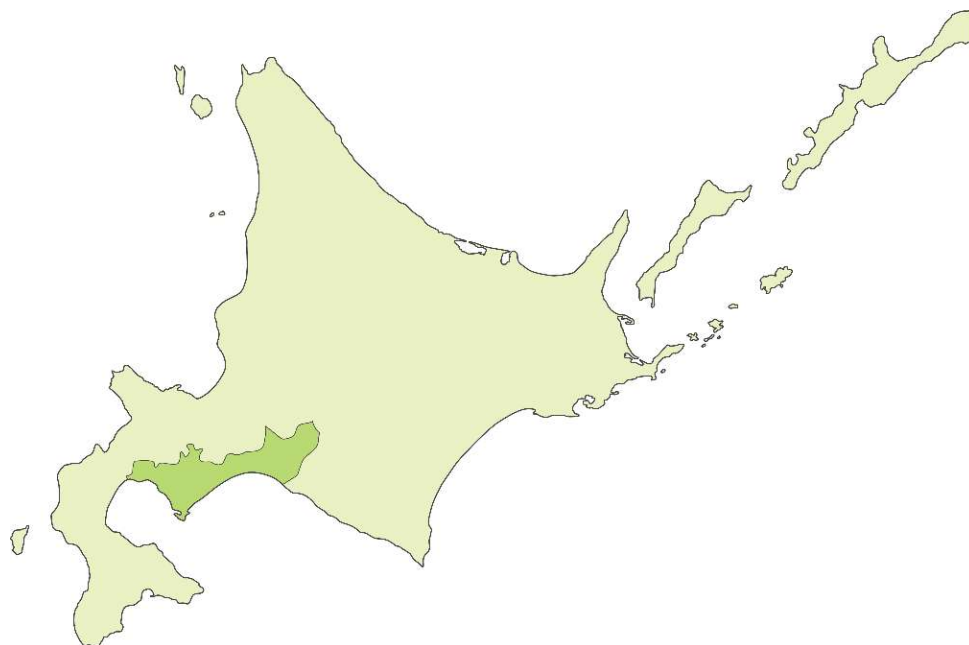
## 自然

- 胆振地域には、支笏洞爺国立公園に指定されている優れた景勝地があります。  
洞爺湖周辺では、有珠山、昭和山などが国際的にも重要な火山現象と火山地形を呈しています。  
登別温泉周辺は、登別地獄谷、大湯沼、倶多楽湖などから構成され、温泉郷独特のたたずまいを見せています。  
また、樽前山周辺では、樽前山と支笏湖が森林と湖の静かな景観を形成しています。
- そのほか、都市近郊の湖沼や海岸線などにも、国設鳥獣保護区やラムサール条約登録湿地に指定されているウトナイ湖をはじめ、美々川流域、地球岬周辺など質の高い自然が広く残されています。

◎総合振興局及び振興局別面積

総合振興局及び振興局	面積	構成比
①十勝	10,831.55k m <sup>2</sup>	13.0%
②オホーツク	10,690.36k m <sup>2</sup>	12.8%
③上川	10,618.70k m <sup>2</sup>	12.7%
④根室	8,499.48k m <sup>2</sup>	10.2%
⑤釧路	5,996.17k m <sup>2</sup>	7.2%
⑥空知	5,791.59k m <sup>2</sup>	6.9%
⑦日高	4,811.02k m <sup>2</sup>	5.8%
⑧宗谷	4,625.70k m <sup>2</sup>	5.5%
⑨後志	4,305.87k m <sup>2</sup>	5.2%
⑩渡島	3,937.46k m <sup>2</sup>	4.7%
⑪胆振	3,697.31k m <sup>2</sup>	4.4%
⑫石狩	3,540.06k m <sup>2</sup>	4.2%
⑬留萌	3,445.87k m <sup>2</sup>	4.1%
⑭檜山	2,630.30k m <sup>2</sup>	3.2%
全道	83,421.46k m <sup>2</sup>	100.0%

・国土地理院「令和5年全国都道府県市区町村別面積調（10月1日時点）」に基づく胆振総合振興局調べ  
・根室振興局には北方領土の面積を含む



# いぶりのあらし

胆振の概況 2023

## 気候

- 管内の気候は、一般的に臨海性で一部には海霧の発生する地域や冷涼な地域を含みますが、積雪寒冷の厳しい北海道にあつては、比較的温暖で暮らしやすい地域となっています。
- 春の訪れは比較的早く、夏は蒸し暑さがなく、さわやかで安定した気候の長い秋が続きます。冬は大陸からの寒気の影響が小さく、山間部の一部を除き温暖で積雪量が少ないなど、年間を通じて恵まれた気象条件にあります。

## ◎令和4年月別平均気温

地点名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
室蘭市	▲1.7	▲1.3	2.6	7.8	11.9	15.1	20.6	21.3	19.3	13.3	11.5	2.5
(平年値)	▲1.8	▲1.6	1.4	6.1	10.7	14.4	18.5	20.6	18.4	12.9	6.4	0.5
苫小牧	▲4.0	▲3.0	1.3	6.8	11.2	14.6	20.8	21.2	18.8	12.0	6.8	▲1.5
(平年値)	▲3.6	▲3.2	0.5	5.3	10.0	14.0	18.2	20.4	17.8	11.5	4.9	▲1.2
札幌	▲3.2	▲2.2	2.6	9.1	14.9	16.8	23.1	22.7	19.8	12.6	7.1	▲1.4
(平年値)	▲3.2	▲2.7	1.1	7.3	13.0	17.0	21.1	22.3	18.6	12.1	5.2	▲0.9

【令和4年平均(平年値)：室蘭9.8℃(8.9)、苫小牧8.8℃(7.9)、札幌10.2℃(9.2)】

## ◎令和4年月別降水量

地点名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
室蘭市	76.5	29.0	68.0	16.5	84.5	206.5	126.0	385.0	100.0	69.0	47.5	44.5
(平年値)	53.6	44.3	49.9	70.0	108.3	109.1	159.2	187.3	156.6	101.8	83.2	65.8
苫小牧	76.5	14.5	74.5	8.5	131.5	190.0	135.5	454.5	154.0	93.5	52.0	53.0
(平年値)	38.7	37.5	53.5	75.7	130.8	111.6	163.5	197.5	174.9	113.2	85.7	56.6
札幌	170.0	112.0	54.5	15.0	66.5	71.0	63.0	233.0	87.5	80.0	82.5	119.0
(平年値)	108.4	91.9	77.6	54.6	55.5	60.4	90.7	126.8	142.2	109.9	113.8	114.5

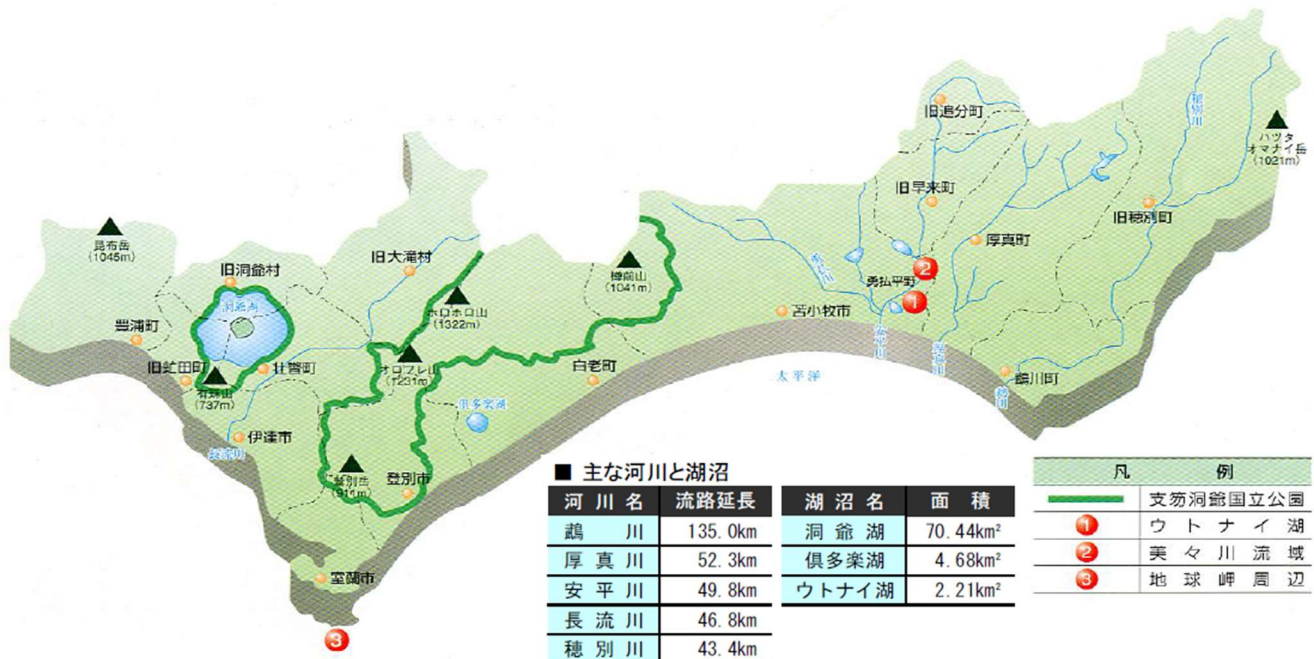
【令和4年降水量(平年値)：室蘭1,280.0mm(1,188.9)、苫小牧1,438.0mm(1,239.2)、札幌1,154.0mm(1,146.1)】

## ◎令和4年月別日照時間

地点名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
室蘭市	106.9	132.4	184.7	251.1	239.9	176.9	125.0	140.6	195.3	187.7	127.4	56.0
(平年値)	88.3	123.6	183.7	198.9	194.9	155.8	133.2	144.9	166.5	165.2	102.7	71.1
苫小牧	137.7	152.2	154.7	246.2	211.8	133.8	100.3	114.5	178.0	171.3	137.9	152.0
(平年値)	142.0	144.7	165.6	173.5	171.9	119.7	108.1	122.2	153.1	156.0	127.1	127.6
札幌	85.0	120.7	131.9	243.0	224.1	173.2	179.4	152.6	169.1	164.0	96.7	81.1
(平年値)	90.4	103.5	144.7	175.8	200.4	180.0	168.0	168.1	159.3	145.9	99.1	82.7

【令和4年日照時間(平年値)：室蘭1,923.9時間(1,728.1)、苫小牧1,890.4時間(1,711.5)、札幌1,847.8時間(1,718.0)】

※ 気温・降水量・日照時間ともに気象庁調べ



# いぶりのあらし

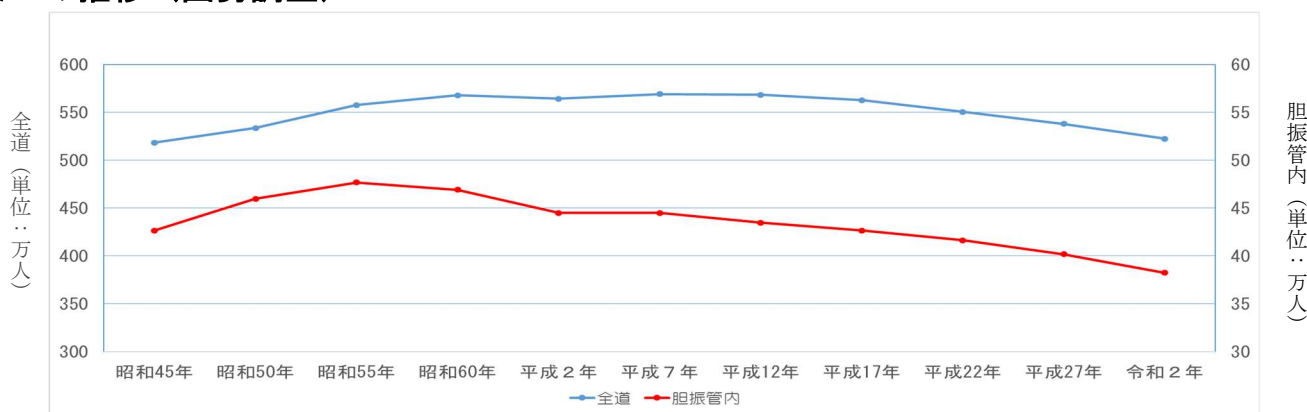
胆振の概況 2023

- 管内の人口は、令和2年国勢調査で 382,354人で、北海道の総人口の7.3%を占めています。人口密度は、103.4人/km2で全道平均66.6人/km2を上回っています。
- 総人口は、国勢調査が始まった大正9年以来増加を続けていましたが、基幹産業の鉄鋼、造船企業の相次ぐ合理化等に伴い、昭和60年の国勢調査で初めて減少し、令和2年の国勢調査では前回（平成27年）調査と比較して19,401人減少しました。
- 総人口に占める65歳以上の人口の割合は、平成7年国勢調査では15.5%でしたが、平成27年では31.2%、令和2年では34.8%と、高齢化が進行しています。

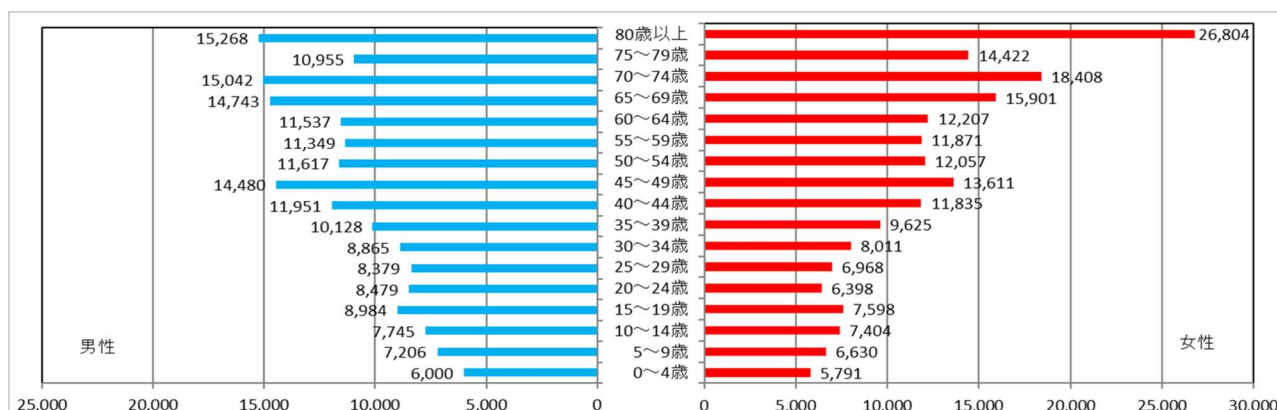
## ◎市町村別の人口・世帯数

	人 口						世 帯 数	
	住民基本台帳（令和5年1月1日）			令和2年国勢調査			住民基本台帳 （令和5年1月1日）	令和2年 国勢調査
	総 数	男	女	総 数	対平成27年増減(%)	国勢調査における人口ピーク		
室 蘭 市	78,252	37,614	40,638	82,383	▲ 6,181 (▲ 7.0%)	昭 45 162,059	44,147	41,766
苫 小 牧 市	168,299	82,537	85,762	170,113	▲ 2,624 (▲ 1.5%)	平 22 173,320	90,867	80,130
登 別 市	45,226	21,663	23,563	46,391	▲ 3,234 (▲ 6.5%)	昭 60 58,370	24,132	20,928
伊 達 市	32,395	15,056	17,339	32,826	▲ 2,169 (▲ 6.2%)	平 12 37,139	17,632	14,844
豊 浦 町	3,627	1,718	1,909	3,821	▲ 470 (▲ 11.0%)	昭 25 11,194	2,039	1,774
壮 瞥 町	2,362	1,128	1,234	2,743	▲ 179 (▲ 6.1%)	昭 25 7,563	1,287	1,170
白 老 町	15,721	7,471	8,250	16,212	▲ 1,528 (▲ 8.6%)	昭 60 24,353	9,308	7,688
厚 真 町	4,381	2,204	2,177	4,432	▲ 406 (▲ 8.4%)	昭 25 10,395	2,129	1,930
洞 爺 湖 町	8,147	3,778	4,369	8,442	▲ 857 (▲ 9.2%)	昭 40 16,243	4,728	4,030
安 平 町	7,314	3,632	3,682	7,340	▲ 808 (▲ 9.9%)	昭 35 14,485	3,968	3,451
む かわ 町	7,488	3,683	3,805	7,651	▲ 945 (▲ 11.0%)	昭 35 19,859	4,024	3,647
合 計	373,212	180,484	192,728	382,354	▲ 19,401 (▲ 4.8%)	昭 55 476,929	204,261	181,358

## ◎人口の推移（国勢調査）



## ◎胆振管内の人口構成（令和2年国勢調査）



# いぶりのあらし

胆振の概況 2023

## 産業構造

### 【産業概要】

- 管内は、農業、林業、水産業、工業、観光、港湾運輸など、バラエティに富んだ産業活動が展開されています。
- 業種別就業者数でみると、全道と比べて第1次産業のウエイトが低く、第2次産業のウエイトが高くなっています。
- 工業、観光、港湾運輸は、全道で高いシェアを占めており、北海道の振興に大きく寄与しています。

### 【雇用情勢】

- 管内の有効求人倍率は、全道の水準を上回って推移しています。

### ◎産業別就業者割合（令和2年国勢調査）

市町名	15歳以上就業者総数(人)	第1次産業	第2次産業	第3次産業
室蘭市	34,733	0.9%	26.4%	71.1%
苫小牧市	76,046	1.9%	25.3%	69.0%
登別市	20,102	1.3%	24.6%	73.4%
伊達市	14,832	9.4%	16.7%	70.8%
豊浦町	1,815	26.4%	11.1%	62.2%
壮瞥町	1,314	25.5%	8.6%	65.4%
白老町	6,558	9.6%	25.4%	62.7%
厚真町	2,405	33.1%	14.0%	52.3%
洞爺湖町	3,972	13.7%	13.0%	69.5%
安平町	3,786	25.1%	17.8%	56.9%
むかわ町	4,146	31.9%	16.8%	50.3%
胆振管内計	169,709	5.0%	23.6%	68.8%

注) 分類不能の産業があるため各産業の合計は100%になりません。

### ◎有効求人倍率の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
室蘭	0.80	0.96	1.13	1.25	1.36	1.51	1.54	1.22	1.23	1.39
苫小牧	0.68	0.88	1.02	1.00	1.12	1.24	1.29	1.20	1.18	1.27
全道	0.74	0.86	0.96	1.04	1.11	1.17	1.19	0.96	0.98	1.09
全国	0.87	1.00	1.11	1.25	1.38	1.46	1.41	1.01	1.05	1.19

### ◎産業概要

項目	全道 (a)	胆振 (b)	(b)/(a)	出典
農業産出額 (令和3年度)	億円 13,108	億円 648	% 4.9	「農林水産統計年報」による
林業素材生産量 (平成25年度)	千m <sup>3</sup> 3,997	千m <sup>3</sup> 155	% 3.9	胆振総合振興局調べ
漁業生産額 (令和4年度)	億円 3,182	億円 116	% 3.6	「北海道水産現勢」による
製造品出荷額等 (令和3年)	億円 61,293	億円 18,687	% 30.5	「経済構造実態調査」による
観光入込客 (令和4年度)	万人 12,298	万人 1,418	% 11.5	「北海道観光入込客数調査報告書」による
港湾貨物取扱量 (令和元年)	万トン 20,184	万トン 12,478	% 61.8	「港湾統計年報」による
外国貿易額 (令和4年)	億円 22,724	億円 16,194	% 71.3	函館税関調べ

### ◎業種別就業者数（令和2年国勢調査）

産業別	胆振管内		全道	
	就業者数(人)	比率(%)	就業者数(人)	比率(%)
第1次産業	8,499 (5.0%)	7,382 4.35%	156,298 (6.7%)	128,971 5.49%
第2次産業	40,017 (23.6%)	161 0.09%	387,947 (16.5%)	1,598 0.07%
第3次産業	116,801 (68.8%)	17,199 10.13%	200,263 (8.53%)	186,086 7.93%
電気・ガス・熱供給・水道業	1,339	0.79%	1,738,586 (74.1%)	13,236 0.56%
情報通信業	1,086	0.64%	45,245	1.93%
運輸業・郵便業	11,509	6.78%	128,748	5.49%
卸売業・小売業	24,600	14.50%	371,504	15.83%
金融業・保険業	2,489	1.47%	43,868	1.87%
不動産業・物品賃貸業	2,149	1.27%	46,254	1.97%
学術研究・専門・技術サービス	3,372	1.99%	66,052	2.81%
宿泊業・飲食サービス業	10,900	6.42%	139,039	5.92%
生活関連サービス業・娯楽業	6,061	3.57%	82,263	3.50%
教育・学習支援業	7,248	4.27%	110,816	4.72%
医療・福祉	25,025	14.75%	352,247	15.01%
複合サービス業	1,761	1.04%	30,484	1.30%
サービス業(他に分類されないもの)	12,286	7.24%	182,325	7.77%
公務(他に分類されるものを除く)	6,976	4.11%	126,505	5.39%
分類不能の産業	4,392	(2.6%)	64,439	(2.7%)
15歳以上就業者総数	169,709	(100.0%)	2,347,270	(100.0%)